

トップニュース

災害の経験を次につなげる 「避難所」



災害落農事集会所(写真左)を自主避難所として住民に開放したのは地震が起きた1月1日の夜。

東日本大震災が発生し3月11日で14年を迎える。あらためて震災の経験をつないでいこうと「避難所」を取り上げる。

能登半島地震から約1カ月間 区長として自主避難所を運営



山本 譲治さん 富山県氷見市・長福寺門徒

避難所運営は、山本さんと役員で話し合ってきた。水洗いトイレなどのため、男性が2人ずつ交代で山の湧き水を汲みに行くようにした。また、車いすの高齢者のトイレ介助は男性2人で行った。

「みんなで協力し避難所生活乗り切る」

「復興の会は昨年7月に結成し、毎月会合を開いていく。57軒あった住宅は41軒に減り過疎・高齢化に拍車がかかるのではないかと心配している。海越しに3000以上の山が景観を世界で力所しない景観を、資材の復興に活用できないかなど意見を話し合っている。みんなが協力することで避難所生活も乗り切れた。この経験をもちに地区の復興も住民の知恵を結集して進めていければ」と話す。

きいていただきたのはありがたかった」と語る。当初は60人ほどだった避難者数も、1週間ほど経った頃から自宅に居る人、親戚宅に移り住む人などが出現し、徐々に減っていき、全員が退所したのは2月6日だった。

寺院が指定避難所に

地域と密接に関わる寺院が、災害時に市民の受け皿となるケースも少なくない。全国には行政の指定避難所になっている本派寺院もあり、長崎市の教宗寺(小笠利証住職)もその1つだ。



長崎市・教宗寺

長崎市・教宗寺

指定避難所のきつかけとなったのは1982年7月の長崎大水害。歴代最大の1時間雨量(180.7mm)を観測するなど集中豪雨と河川の氾濫で死者・行方不明者299人を出し、同寺でも門徒30人が亡くなった。高台にある寺は大水から逃れてきた住民であふれ、50人以上が1週間余りの避難生活を送ったという。

大水害きっかけに避難者を受け入れ

「地域の皆さんの安心できる居場所であることが元々のお寺の役割。だから特別なことではないと思っています」という小笠さん親子。もちろん災害が起きるに越したことはないが、大変な時にこそ、「仏さまに守られているように安心」という関わりができる」と話す。

本願寺新報

hongwanji journal

3月10日(月曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社

京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派(西本願寺) 千600-8501 本願寺出版社内 電話 075(371)4171(代) / FAX075(341)7753

茶道 敷内家燕庵

京都市下京区西洞院正面下ル http://www.yabunouchi-ennan.or.jp

私たちのちかい

- 一、自分の殻に閉じこもることなく 穏やかな顔と優しい言葉を大切にします 微笑み語りかける仏さまのように
一、むさぼり、いかり、おろかさにならせず しなやかな心と振る舞いを心がけます 心安らかな仏さまのように
一、自分だけを大事にすることなく 人と喜びや悲しみを分かち合います 慈悲に満ちみちた仏さまのように
一、生かされていることに気づき 日々を精一杯つとめます 人びとの救いに尽くす仏さまのように



今の日本の子どもたちは幸せだろうか。現況を見ると必ずしもそうとは言えない。厚生労働省が発表した、自ら命を絶った児童生徒数は過去最高となり、昨年1年間で527人に及んだという。子どもたちが幸せだと感じる社会にするために大人はどうしたらいいのか。

▼地域相談機関・児童家庭支援センターは、児童虐待の発生予防、親子関係の再構築などの家族支援、家族が抱える問題に寄り添ってその自立を支援している。その1つ、社会福祉法人・光明童園が運営する「オリーブの木」(熊本県水俣市)がユニークで公開しているセミナー「みらいの子ども達に何を思う？」は、たくさんの示唆を与えてくれる。▼児童養護施設も運営する同法人・堀淨信理事長(同市・西念寺僧徒)はセミナーで、「家族・保護者の幸せがないと子どもの幸せはない。虐待ではなく心配な家庭として、子どもと家族をまるごと支える地域支援が欠かせない。さらに、「児童虐待、子どもの貧困の原因は社会の『家族依存』にあり、『子育ては親が行うべき』『子育ての全責任は親にある』という自己責任論から、社会全体で子どもを育むという価値観に変えていかないといけない」と。▼その一歩は身近な所から。日常、幼い子どもを抱えて大変そうにしている人に出会うことがある。「子育て大変ですね」とつながっていくことが大事だという。社会に蔓延する「つながりの貧困」からの脱却が、子どもが幸せになる道につながっている。

福岡支局 千812-0002 福岡市博多区空港前3-9-16 善教寺内 電話 092(621)5163/FAX092(621)9400 購読料1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日 浄土真宗本願寺派 代表電話 宗務所 075(371)5181 / 大谷本願寺 075(531)4171

宗派公式Webサイト https://www.hongwanji.or.jp 本願寺ホームページ https://www.hongwanji.kyoto

朗読セラピー書籍! 仏教が楽しくなる本! 暮らしの仏教語豆事典 (上巻)276頁/(下巻)240頁/文庫判 各1,100円(税込) 文 辻本 敬順 絵 寄藤 文平

加羅 沈香・線香・匂い袋 香老舗 創業文禄三年(1594年) 薫玉堂 京都府京都市下京区堀川通西本願寺前

施設管理は、 オリックス・ファシリティー・ズ株式会社 本店 千600-8385 京都府京都市下京区大宮通仏光寺下五坊大宮町9

湯葉 京都 湯葉 創業元禄初年 大笹屋 京都市左京区聖護院蓮華蔵町36 TEL 075-751-6889 FAX 075-751-7304 E-mail:m@ozasaya.com